

サステナブル時代の キャンパスFM

部会長 **藤村 達雄**

ふじむら たつお

東京音楽大学 財務施設部 施設課長
認定ファシリティマネジャー



大学等コアリションの設立

「サステナブル (Sustainable) な社会」とは、「持続可能な社会」を意味する。それは、地球の環境を壊さず、資源も使いすぎず、未来の世代も美しい地球で平和に豊かに、ずっと生活を続けていける社会を実現すること。

このような中、2021年7月29日、188の大学等が参加する「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」が設立された。このコアリションは、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、大学が、国、自治体、企業、国内外の大学等との連携強化を通じ、各地域の「知の拠点」としての機能や発信力を高める場として期待されている。

JFMA フォーラムでは、キャンパスFM研究部会は、大学がファシリティマネジメントの視点から、カーボンニュートラル、多様性への配慮、大学自体の持続性等について、各大学の事例を紹介しながら、説明した。

サステナブル施策立案にはバックキャストिंग

サステナブルは、環境や社会を傷つけたら経済活動を持続的に成長させることができないという考え方で、未来のあるべき姿を先に描き、そこから逆算して現在の施策を立案するバックキャストिंगの手法が有効といわれている。関西大学は、「Kandai Vision 150」の中で、20年後の数値イメージを示し、それを目指した長期計画を策定している。

カーボンニュートラル

環境配慮促進法が制定(2004年)されて以来、国立大学においては、環境報告書の作成および公表に関する措置等を講ずるために、学生等を巻き込んだ省エネ活動が活発に行われてきた。その一端を紹介する場として、エコプロダクツ展(1999年12月初回)に参加する私立大学も複数あった。

2015年4月から福井大学が実施している「管理一体型ESCO事業」は、標準型ESCOに、①既存設備の省エネ運用改善、②ESCO設備の運転管理、③既存設備の保全・点検を加え、2015年4～7月に、一次エネルギー削減率18.3%、CO₂排出量削減率18.6%の実績がある。

多様性への配慮

多様性とは、人種・年齢、価値観や国籍、宗教、障害

の有無、LGBT等を受入れ、多様な人材を活かす取り組みのこと。

オールジェンダートイレを設置した国際基督教大学は、2004年にジェンダー研究センターを設立し、性差研究等が進められている。このトイレの設計には、トイレ委員会や、ジェンダー・セクシュアリティ研究メジャーの教員との話し合い、アンケートが反映され、男性小便器の個室設置は、特筆されること。これは、「個室が汚れてしまうと、みんなが『いやだ』といってそこを使わなくなってしまう。そういうことを考えて、教員たちが『やっぱり男性用小便器のブースは作ったほうがいいよ』という結論を出した」とのこと。

大学自体の持続性

大学自体の持続性のためには、施設の維持保全(施設の長寿命化、安全・安心管理と施設基盤の持続性)と、時代の変化・変革に対応した施設整備(施設のトリアージによる峻別、イノベーション創出のための整備)が必要と主張している。

公立大学法人の長野大学の「施設長寿命化計画」では、築30年以上が約8割という状況の中で、長寿命化型の整備をすると、従来型の整備と比べ、40年間で2割強の縮減を図ることができるとしている。

施設のトリアージは、文科省が、「大学の理念、施設の現状、将来にわたる施設整備や維持管理に係る費用、財政状況の見通し等を踏まえ、既存施設の保有の必要性や投資の可否とその範囲等を選別すること。」として、「施設の総量の最適化と重点的な整備」のための判断の手順を示している。

サステナブル時代のキャンパスFM推進のポイント

サステナブルの時代には、キャンパスFMの課題として整理すると、環境がカーボンニュートラル、社会が多様性、経済を大学自体の持続性ととらえることができる。

本部会では、本年3月に、『財務視点から考える私立大学のファシリティマネジメント』を発行し、サステナブル経営の課題解決に有効なポートフォリオ・マネジメント、ファシリティコスト評価、FCIによる計画的保全管理等を紹介している。ぜひ、ご購入いただきたい。◀